

令和5年度旭川未来会議2030 障がい者スポーツ分野 第4回分野別会議 会議録

1 開催日時 令和5年9月7日（木） 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所 旭川市障害者福祉センターおびった2階 会議室3
(旭川市宮前1条3丁目3番地7号)

3 出席者（参加者） ※敬称略，五十音順
赤堀 達也，麻生 早苗，阿部 龍雄，五十嵐 真幸，内村 隆一郎，
高田 朋枝（オンライン），塚田 鉄平，二條 実穂，藤田 佑平

4 出席者（市側）
(運営事務局)
福祉保険部 高越次長
障害福祉課 遠藤障害事業係長，障害事業係 田中，大谷
スポーツ課 松田課長，大野主査，黒墨
(統括事務局)
広報広聴課 山本広聴係長

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 0名

7 意見交換

第1回会議から第3回会議の参加者からの意見をまとめた報告書（案）を共有し，意見交換等を行った。

【報告書（案）の各項目】

- ・ パラスポーツとは
- ・ 旭川市パラスポーツまちづくりビジョン2030
- ・ 3つの提言
 - ⇒「教育にパラスポーツの導入を」
 - ⇒「学校・公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化」
 - ⇒「パラスポーツ係を市役所に設置」
- ・ 未来に向けて
- ・ 障がい者スポーツ分野参加者

(1) 最終報告における発表内容等について

進行役から参加者に、これまでの意見を整理した報告書（案）を説明した。

（参加者）

- ・ 「メッカ」という言葉は、放送禁止用語に該当している可能性はないか。

（事務局（スポーツ課））

- ・ 公約の中で「メッカ」という言葉を使用しているが、一度確認した方が良い。

（参加者）

- ・ パラスポーツと障がい者スポーツの違いについて、疑問を持つ方も多くいると思う。

（参加者）

- ・ パラスポーツには、パラリンピックの競技種目もあれば、競技種目にはない障がい特性に応じた配慮された種目もある。
- ・ 障がい者のスポーツに関して、日本障がい者スポーツ協会は、令和5年3月に「障がい者スポーツ」という言葉から連想される福祉やリハビリのためのスポーツというイメージを変えようと、呼び方を「パラスポーツ」に統一している。
- ・ パラスポーツは、障がい者だけが行うものではなく、障がいの有無にかかわらず参加者が共に楽しむことができるよう、障がい特性に応じた配慮から、ルール変更等も含めて工夫されたスポーツと捉えられている。
- ・ パラスポーツは、一般スポーツと違う独立した分野ではなく、全てのスポーツの中の一つである。
- ・ このことについては、当会議をとおして共有しているので、報告会で質問があれば、適宜、回答できると思う。

（参加者）

- ・ スクリーンに投影すると報告書で使われている色等が見えにくいのではないかな。

（参加者）

- ・ 色合い等については、報告会の会場でも見やすくなるよう色合いを検討したい。

（参加者）

- ・ 提言「教育にパラスポーツの導入を」の目標に、旭川市の小中学校を対象に2024年から10校開始とあるが、10校に設定した理由はあるか。

（参加者）

- ・ パラアスリートによる体験型授業の導入を目指しているということなので、まずは10校ということで設定した。
- ・ このほか、これまで教育機関や企業等に対して、市内の各団体等が出前講座等を行っている。以前までは、市からの報償費もあったが、今はなく無報酬で行っている。

（事務局（スポーツ課））

- ・ パラアスリートによる体験型授業は、今年から導入だったかもしれないので、確認した方

がいい。

(参加者)

- ・ 提言「教育にパラスポーツの導入を」については、理由等を加えた方が良い。
- ・ この提言の目的は、子ども等に障がいという個性や多様性等を理解してもらうことである。
- ・ 報告書の目標は、目標達成に向けた必要な事項をまとめた内容になる。

(進行役)

- ・ 修正を図りたい。

(参加者)

- ・ 提言の具体策であるパラスポーツ教育の対象者に、保護者も入れた方が良いと思う。

(参加者)

- ・ 教員についても、教職員にした方が良い。

(参加者)

- ・ 道外の有名選手や世界で活躍している選手等を招へいした講演会や競技の体験会等を行っても、その時は「凄い人の話を聞いた。」等の興味関心を持ってもらえるが、時間の経過とともに熱が冷めてしまう。それよりも、地元で活動している選手や元選手等が行った方が継続した取組に繋がりやすい。

(進行役)

- ・ このことについては、具体策のパラスポーツの教育を行うところに「旭川にゆかりのある選手・関係者等が」と追記したい。

(参加者)

- ・ 「個性」の中に「障がい」を連想させることができると良い。

(参加者)

- ・ 関東では、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)がはやっている。
- ・ この言葉の意味を参考にして、「多様性」、「包括的」、「受け入れる」等の言葉を活用しても良いと思う。

(参加者)

- ・ 「障がい」＝「個性」と気づけるようにしたい。

(参加者)

- ・ 提言「学校・公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化」の目標の中に記載している、「障がい者のスポーツ実施率20.7%→50%」については、50%を目指すために必要な具体的な取組を、口答でも良いので説明できるように準備ができると良い。
- ・ また、学校開放等も含めた公共施設(予約も含む)の利用については、障がい者に配慮した取組が必要である。この提言は、「まちづくり」の視点からも重要と思う。

(参加者)

- ・ この目標には、「令和8年第5次旭川市障がい者計画の策定に関する障がい者アンケー

ト調査【外出時に困る】４５％→２５％（２０％減）」にもつながると良い。

- ・ 旭川市のタクシーやバスの運転手等が、ちょっとした気遣いや手助け（支援）を行うことによって、移動支援を補う取組につながると思う。ユニバーサル化には、このような取組も必要である。

（進行役）

- ・ 具体策に盛り込みたい。

（参加者）

- ・ スポーツを知る、体感する、観戦する機会を増やすことも必要かつ重要と思う。
- ・ 移動支援のユニバーサル化を提案するのも良いかもしれない。

（進行役）

- ・ そのことを踏まえて障がい者のスポーツ実施率５０％を目標にしたい。

（参加者）

- ・ 障がい福祉サービスは、教育機関における登下校の移動支援が対象外である。
- ・ 教育機関に通えない環境を改善することが必要である。
- ・ 移動支援のユニバーサル化は、良い提案である。

（参加者）

- ・ タクシーの運転手等の理解を深めることによって、安心して利用することができる。

（参加者）

- ・ 札幌駅の一部で取り組んでいる。

（参加者）

- ・ ビジョンの後に、２０２４年までにはこういう取組、２０２７年までにはこういう取組と
いうように、２０３０年までの達成に向けた必要な具体策をまとめたロードマップがあると、
市長に伝わりやすいと思う。

（参加者）

- ・ 提言「学校・公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化」の具体策については、健康増進・医療費削減、観光産業の活性化等、市民や企業等に還元できる要素が多くあり、アピールポイントである。このアピールポイントは報告資料に載せた方が良い。
- ・ 提言「パラスポーツ係を市役所に設置」については、市のそれぞれの課にパラスポーツの担当者を配置することも想定した提言も良いかもしれない。
- ・ 担当制であれば、今すぐにでもできる。

（参加者）

- ・ パラスポーツ・障がい者スポーツ関係者は、ボランティアの立場で関わっている。
- ・ このボランティアの立場での関わりには限界があるため、給料が発生し、責任を持って取り組んでもらえる体制を望んでいる。
- ・ 複数の課に担当がいることによって、責任の所在が不透明となって、今と同じ現象になる。

- ・ さらに、全体をまとめる部署が必要となることを考えると、目的や役割が曖昧な担当者が増えるだけで、市の負担が増えるだけである。
- ・ 障がいの有無等にかかわらず、全てのスポーツの中の一つとして考えたときに、スポーツ課に担当者がある（係がある）と一番すっきりするし、関係者も納得して安心もできる。
- ・ 市が全面的に協力した法人を設立するのも良い。
- ・ 一般社団法人札幌市スポーツ協会のようなスタイルも良いかもしれない。

（事務局（スポーツ課））

- ・ 市の関係部局が集まって検討会議を開催するのも良いかもしれない。

（参加者）

- ・ それぞれの部局にも精通している体制を構築したいが、その中でも特に、市のスポーツや教育に関わる職員等を含めた職員を「動かせる体制」が重要である。
- ・ どちらにしても、それらを束ねる部署は必要である。

（参加者）

- ・ 当分野での意見は、最終的に「まちづくり」の一端を提言するものである。
- ・ 提言「パラスポーツ係を市役所に配置」も、その一つに過ぎない。
- ・ 係ではなく、課で良いかもしれない。

（事務局（スポーツ課））

- ・ ロードマップの第2段階で、事業を実施するのも良いかもしれない。

（参加者）

- ・ どのような体制であっても、市と関係者が互いに偏ることがないように、役割を明確にした体制を構築した方が良い。

（参加者）

- ・ スポーツ課は観光スポーツ交流部に属している。観光スポーツ交流部は、今回の提言の多くを占めている部署である。

（参加者）

- ・ 何かに取り組むということは、提言に入れたい。
- ・ 「何かに取り組む→現状の人材では難しい→人材を増やそう→係を作らなければならない」というような流れを作りたい。

（事務局（スポーツ課））

- ・ 2027年までに何か一つイベントを行って、その結果、継続するためには人材や経費がかかることを示すのも良いかと思う。

（参加者）

- ・ 全道・全国大会や世界等を含めた、ありとあらゆるイベントや事業等を、何十年も前から実施している。
- ・ 無駄な時間を費やすだけで提言が風化するため、そこは省きたい。

(参加者)

- ・ 市の総合政策部の中に担当部署を配置することによって、全ての部署に精通することができるような気がする。

(参加者)

- ・ 会議とイベントを繰り返して、大きな体制を構築するイメージでも良いかもしれない。

(参加者)

- ・ 旭川市で開催される全道大会は、道具や設備等が整っていないため、札幌市に借りていることが多い。
- ・ 2030年までに、旭川市の公共施設等に道具や設備が整うと良い。

(参加者)

- ・ 提言「学校・公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化」に戻るが、2024年から調査等を実施し、2027年までに道具を配置して設備を整える等も良いか。

(参加者)

- ・ まずは、旭川市と関係者が一緒に考えて行動に移してくれる部署を作ることによって、その他の二つの提言も解決しやすくなる。
- ・ 情報の発信・集約等から、提言の実現に向けて取り組むのも良いかもしれない。

(事務局（スポーツ課）)

- ・ 「教育にパラスポーツの導入を」と「学校・公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化」の二つの提言については、市の関係部局が集まる検討会議が二つの提言をリードする場となるかもしれない。

(参加者)

- ・ 検討会議では、課題意識を持って取り組んでほしいということと言える。

(進行役)

- ・ その課題意識を明確にするために、市の窓口、会議の進行、事務局の所在等をはっきりさせる必要があるため、「パラスポーツ係を市役所に設置」を提言している。
- ・ この三つの提言に共通していることは「障がいの分野から」や「障がい分野で」という考え方ではない。
- ・ 障がい者と健常者を分断して考えずに、この三つの提言を実現できるよう報告したい。
- ・ 加筆・修正等を行った報告書については、事務局から参加者に確認してもらい、報告会に臨みたい。

8 全体報告会について

次回の全体報告会の開催については、令和5年10月24日（火）又は10月30日（月）のいずれかで日程調整を行っており、いずれの日程であっても、午後6時30分からC o C o D eでの開催を予定している。